

タンチョウの数かぞえ調査の結果

毎年恒例のタンチョウの数かぞえ調査（正式名はタンチョウ越冬分布調査／北海道実施）の第2回目が1月23日に実施されました。この調査は同時期に全道各地でタンチョウを確認・記録するもので、昭和27年（1952年）から続けられています。12月5日に実施された1回目の全道の集計結果とあわせて、2回目の鶴居村内の結果をご報告します。

1回目は、全道で1,098羽（鶴居村内318羽）が確認され、令和元年度に次ぐ過去2番目に多い結果でした。この時期は繁殖地に居残るなどタンチョウは全道に分散しているため、全体の羽数を知るといよりは、どの地域にタンチョウがいるのかを知るのに適しています。近年では胆振・日高地方で繁殖するタンチョウも少しずつ増えていることがわかっています。振興局別のこの5年間の確認羽数の推移を図1に示しました。

2回目は、村内では小学生18名を含む村民82名が42地点で調査にあたりました。参加人数、調査地点数とも道内で断トツの多さだと思います。確認羽数は567羽で、こちらも道内最多となるでしょうが、多くの村民にご参加いただいて調査するようになった平成30年度以降では、過去最少の確認羽数です（これまでは令和4年度の579羽が最少）。村内地区別の結果（表1）を見ても、ほとんどの地区で前年度の確認羽数を下回りました。ただ、調査日の数日前から厳しい冷え込みが続き、調査時間帯はねぐらとなる川から動かないなど人目に触れない場所に相当数がいたと思われ、このことが確認羽数の減少の主因と思われます。一方で、国を挙げて取り組んでいる「タンチョウ越冬地分散」の促進が奏功している可能性もないわけではありません。全道の集計結果によって、その可能性についても多少の考察ができるでしょうが、長期にわたり広い視野で経年変化を見て慎重に判断することが大切です。全道の集計結果は2月下旬に発表される予定です。

図1 第1回調査の確認羽数の推移（R3～R7・振興局別）

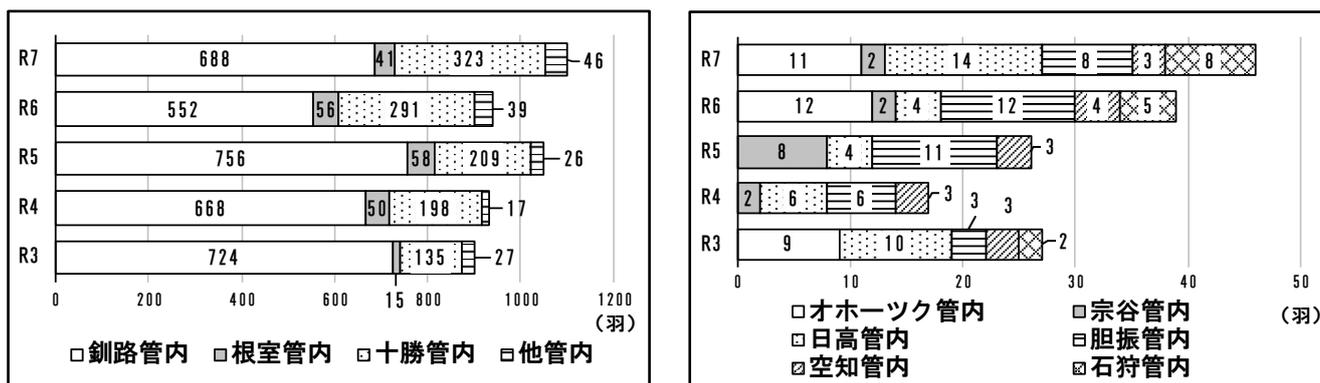


表1 第2回調査の村内地区別の確認羽数

観察地点	地点数		調査人数		確認数				
	R7	前年比	R7	前年比	成鳥	幼鳥	不明	計	前年比
1 中久著呂	2	0	2	0	5	0	0	5	△2
2 下久著呂	3	0	3	0	21	3	0	24	△13
3 茂雪裡	2	0	2	0	2	1	0	3	△2
4 支雪裡	1	△1	1	△1	2	1	0	3	△4
5 中雪裡	11	0	22	△3	151	17	0	168	△41
6 下雪裡	6	0	15	+4	264	15	32	311	+78
7 新幌呂	5	+1	6	+2	0	0	0	0	0
8 上幌呂					0	0	0	0	△3
8 支幌呂					23	5	0	28	△27
9 茂幌呂	2	+1	2	0	0	0	0	0	△4
10 中幌呂	2	△1	9	+6	9	2	0	11	△4
11 中幌呂下	2	0	3	+1	7	0	0	7	△7
12 下幌呂・温根内	6	+1	17	+12	6	1	0	7	+1
合計	42	+1	82	+21	490	45	32	567	△28